



Keidanren Women's Executive Network

Leadership Mentor Program

サステイナブルな 経営に向けて



Keidanren

経団連女性エグゼクティブ・ネットワーク

第27回リーダーシップ・メンター・プログラム

2023年1月30日 東京・大手町 経団連会館

経営者としての視点

旭化成は創業100年企業であり、サステイナブルな経営に向けて、経営者として、①守り続けるもの②大切にすること③変化・強化すること④新たに取り組むもの—を心がけてきた。皆さんがこれからさまざまなポストや新しい仕事にアサインされた時には必ず、今までどうだったのかを含めて、こうした視点から物事をみるのが重要と思う。変化・強化することや、新たに取り組むことは、チャレンジングであり、責任や結果も問われるため勇気がいる。また、「やめる」勇気も必要になる。現在のようVUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) といわれる環境の変化が大きく不確実性が高い時代に、スピード感をもって経営を行うことが求められる。

すべては人から、終身成長

厳しく変化する環境下で企業が生き残るには、専門性を持った人財の集団となり、成長していくことが大切である。当社は、企業活動の源泉は人財であるとの考えのもと、「すべては人から、終身成長」

をキーワードとして、人財が継続的に成長していくためのさまざまな仕組みをつくっている。特に、年功序列や終身雇用ではなく終身成長につながっていく施策・制度を順次打ち出している。自分の得意分野を通じて、どうすれば会社に貢献できるかを考え成果を出すことで、会社から任される業務量が増え、人が集まり、マネジメントを行う必要が生じるという好循環がもたらされる。

情熱を持ち、議論し、行動を

私の好きな言葉に“Discussion Leads to Conclusion (議論は結論を導く)”“Passion leads to Action (情熱は行動を導く)”というものがある。ある種の方向付けが必ずディスカッションのなかから生まれ、新たにみえてくるものがある。また、組織のメンバー一人ひとりのやる気や情熱の総和が、その組織全体の活力となる。やる気や情熱を引き出し、多様な視点を持った人財とディスカッションしながら連携を深め、具体的な行動につなげていくことが、グループスローガンに掲げる“Creating for Tomorrow (昨日まで世界になかったものを)”につながる。

Mentor Profile

小堀 秀毅氏

(一社)日本経済団体連合会
副会長

旭化成(株) 代表取締役会長

1955年石川県生まれ。1978年神戸大学経営学部卒業後、旭化成工業(現旭化成)入社。機能性樹脂部門の営業担当、半導体事業の子会社社長、2012年経営戦略・経理財務担当役員などを経て、2016年社長、2022年より会長。

経団連では、2017年審議員会副議長、2022年より副会長。社会保障委員長、環境委員長も務める。

AsahiKASEI

